

咲きほこる

校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和 2年 4月16日(木)

南関町立南関第四小学校 学校便り

No.1

文責：坂本 隆文

令和2年度スタート…。

8日(水)に就任式・始業式を実施し、9日(木)には、新入生と保護者、職員のみでの参加での入学式を実施し、何とかスタートすることができた令和2年度でしたが、その後は10日(金)と13日(月)の二日間だけで、また臨時休校となってしまいました。

入学式は、卒業式と同じように入学児童と保護者、職員のみでの実施となりました。例年と比べると寂しくはありましたが、参加者全員で心を込めて15名の新入生を迎えました。これから、心も体も元気にたくましく成長してほしいと思います。



さて、本年度は本校職員が大幅に入れ替わりました。8名の新しい先生をお迎えしました。これまでの伝統を受け継ぎつつ、これからの時代に必要な新しい考え方や仕組みを作っていきたいと思います。



また、昨年度まであった複式学級(2学年一緒の学級)が解消し、1年生から6年生までの6学級と、たけんこ学級、よつば学級の合計8学級となりました。全児童76名と、昨年度よりも若干人数も増えました。

まだまだ今後の見通しが持てない厳しい状況ではありますが、児童・保護者・地域・学校・教育委員会の五者で協力し合いながら、これからの南関町・熊本県・日本・世界を支えていく子どもたちを育てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

R2 めざす子どもの姿

今年度の「めざす子どもの姿」を

◇気持ちいいあいさつ(ができる子ども)

◇よく聴き・よく話す(子ども)

◇きちんとくつならべ(ができる子ども)

としました。

一番目のあいさつについては、昨年度の「進んで」から一歩進んで「気持ちのいい」としました。どんなあいさつが「気持ちいい」あいさつになるのか?学年に応じて考え、実践してほしいと思います。進んで、笑顔で、元気よく、目を見て、一声加えて…。



二番目の「ききかた、はなしかた」については、昨年度の「聞く」から「聴く」へとレベルアップをめざしたいと考えました。ただ音として聞き取るのではなく、相手の考えや気持ちに、心を向けて聴いてほしいということです。たとえ、たどたどしい発表でも、前後の文脈や本人の表情などからもその意図を感じ取り推し量ろうとする、そのような姿勢があれば、「〇〇さんは、きっとこんなことが言いたいのだろう。」「〇〇君の考えは、△△△ということかな?」などと共感的な理解、話し合いができるようになってくると思います。

三番目の「くつならべ」は、昨年度の「後片付けができる」を具体的な一つに絞ってみました。まずは、自分の靴、上靴のかかとをそろえて並べようという意識が大切です。後片付けは、自分の持ち物や自分が使った物に気持ちを向けて、次に使う人のことや次に使う時のことなどを考えていないとできません。

三つのことができるということは、友だちを大切にすることにつながります。ぜひ、各ご家庭でも子どもたちの実態に応じて、声かけをお願いします。



新型コロナウイルスの感染拡大防止

全国・全世界でまだまだ感染が拡大している状況です。熊本県でも感染者が30名を超えましたし、すぐ隣の福岡県は緊急事態宣言の対象地域となっています。先日有明保健所管内でも感染者が見つかりました。長い休業となっていて、子どもたちも退屈したりしていることですが、「身の回りにウィルスが近付いてきている」という危機意識を持って、健康管理に気を配ってください。よろしくお願いいたします。